

「脱・標準化」をめざしましょう



教育随想

岡崎メイツこども発達クリニック
院長 早川 文雄 氏

岡崎市こども発達センターは未就学幼児を対象としているが、昨今の不登校児童の急増で分かるように、入学以降にこそ幾多の困難が待ち受ける現実に対処すべく、クリニックを開設した。クリニック受診理由は①養育困難、②学習困難、③心身症・チック・吃音、④不安・登校しぶりに分類できる。①から④は、子供のストレス状況の進展を順に追っている。①と②はストレスが顕在化していない時期の受診であるのに対して、③はストレスを浴びた急性の反応期、④はストレス蓄積における、慢性の段階である。①②で受診する児童は、保護者の特性理解や学校環境の調整によってストレスを軽減する余地がある一方、③④で受診した児童は早急の環境調整に加え、メンタルアップを目的とした心理治療が必要となる。不登校になると、様々な介入の効果は厳しいので、①③④段階こそが、不登校予防のホット・スポットである。

日本は家族も本人も標準化願望（みんなと同じがよい）が強いので、みんなと同じでない「能力」や「特性」をもてば、目標と現実のギャップがストレスとなり、子供のメンタルに重くのしかかる。教師も標準化を目標とする傾向が強いため、みんなと同じでない「能力」や「特性」をもつ子の扱い方が分からないことが多い。不登校を歎く前にストレス状況からの脱却が最優先なので、ストレス因となる「能力」や「特性」を理解して、「脱・標準化」をめざす必要がある。

就学前にWISC検査を実施することは多いが、知能指数が平均的だからといって安心できない。領域間に能力のデコボコがあると、教師も保護者も本人も理解に苦しむことになる。一般に能力は分野ごと均一と思いがちで、その子の高い能力分野の評価で優劣をイメージするが、優れた分野に比べ劣る領域では成果が得られず苛立ちやサボリという錯覚を招き易い。本人も苦手領域のがんばりを強いられて成果は上がらず、次第に窮地へ追い込まれていく。標準化願望から脱し、長所を伸ばす戦略に転換しないと、①②の養育／学習困難から③④に進展しかなない。

(1)



令和8年2月1日

2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎メイツこども発達クリニック 院長 早川 文雄 氏	
この人に聞く……………	2
毎日商会 代表取締役 西田 勝志 氏	
羅針盤……………	2
常磐中学校 校長 近藤 善紀	
ふれあい……………	3
竜谷小学校 教諭 横山 智一	
特集……………	4
スポーツとアジア各国の文化体験から学ぶ ～学校フレンドシップ事業～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
季節を味方に (昭和52年)	
この本を……………	8

(はやくわ ふみお)



未来を考え、当たり前前を変える

毎日商会 代表取締役

西田 勝志 氏

産業廃棄物処理を担う毎日商会は、全国に先駆けて廃棄物選別の自動化に取り組み、効率化を実現している。その代表である西田氏は、なぜそのような取組を考えたのか。会社の代表として、今後どのようなことを目指すのかを伺った。

—産業廃棄物選別の自動化に取り組んだ理由を教えてください—

わたしたちが当たり前だと思っていることを変えたいと考えるようになったからです。二十七歳の時に父親が亡くなり、半ば強制的に会社を継ぐことになりました。始めは今までのやり方どおり、集められた産業廃棄物を一度作業場に広げて、従業員と共に手作業で選別をしていました。夜通し選別したり、年末年始も

行ったりしていました。しかし、従業員が辛そうに働く姿を見て、もっと効率の良い方法はないだろうか、社長としてできることはないだろうかと考え始めました。

そこで、愛知県主催の「あいち環境塾」という勉強会に参加しました。廃棄物の不正処理が環境に与える影響や、社長としての姿勢等を学びました。学ぼううちに、目の前のことだけでなく、五年先、十年先、未来のことを考える人が会社に一人ぐらい必要だと気付きました。また、そこで出会った方から「何も決めないことがいちばんいけない」と言われたことに心を動かされ、当たり前前を変える自分になろうと決心しました。今まで手作業だった産業廃棄物選別を機械でやろう、自動化できる方法を考えようと決めました。

—選別の自動化を始めた頃の思い出や、取り組んだ成果は何ですか—

機械で選別しようと決めてから、リサイクル業界の展示会に行き、これは良いと思った機械を工場に導入しました。従業員は喜ぶと思っていました。が、「こんなのは使えない」と言われてしまいました。いちばん大事な現場の声を聞かずに決めたことが原因でした。その後は従業員と一緒にどうしたら効率よく正確に作業をすることができると考えました。そして二〇一六年、縁あって、岡崎にある機械工作の会社と産業廃

棄物選別を自動で行える機械を開発することができました。地元の会社ということもあり、その後も何度も話し合いをし、機械の精度を高めました。二〇二〇年には画像認識で分別できるようにしました。二〇二五年にはさらに大型の機械を導入して、大きな産業廃棄物も分別できるようにし、重作業を減らすことができました。そのおかげでコンテナ一台を今までの三分の一の時間で選別できるようになりました。三十八%だった埋め立て率は四・九%まで減らすことができました。

—今後の展望を教えてください—

この業界のイメージを変え、たくさんの方がここで働きたいと思える会社づくりを目指しています。産業廃棄物選別の自動化により、業界の慢性的な課題であった重労働を解決することができました。この取組は同業者にも注目され、遠方からも見学の依頼があります。私は、参考になるなと思います。全てオープンにしています。この業界に魅力を感じて働く人が増え、結果的に日本の環境問題が減るような社会づくりができればと考えています。



氏名 にしだ かつし
生年月日 昭和五十一年
七月十七日

WEBQU分析・活用のおススメ



常磐中学校

校長 近藤 善紀

岡崎市がサポートシステム「HYPER・QU」を公費負担で導入したのが十年ほど前。その後、実施学年が順次拡大されるとともに、年度内実施が二回に増加するなど、その充実ぶりは他市町を圧倒している。

二回実施の意図は明白だ。学級発足から一か月後の五月に行う一回目のねらいは、軌道に乗り始めた学級での状態把握。半年後の十一月実施の二回目は、五月からの変動を見るためのものだ。当然、そこに分析が加わり、手立て、さらなる実践へとつながる。結果からは、学級の状態に加え、設問の個別回答で個の学級帰属感やソーシャルスキルレスポンスの把握なども可能である。一年で完結するには、あまりにもつたいない、貴重なデータである。

そこで本校では、前年度データと連結させてデータ管理を行い、相關



「ひとつだけ、言ってい

竜谷小学校

教諭 横山 智一

二年生のAさんと初めて出会ったのは特別支援学級の教室。笑顔が素敵で、楽しそうに話をする子だった。「ねえ、先生。ひとつだけ、言ってい」は、自分の思いを伝えようとするとき、Aさんがよく口にする言葉だ。「ひとつだけじゃなくても、いいんだよ」と返しても、Aさんは微笑みを浮かべながら、ひとつだけ、自分の思いや気持ちを伝えてくれた。たくさん話したい気持ちを、「ひとつだけ」と言って話し始めるところに、Aさんのあたたかな気遣いや思いやりを感じることができた。

用事で手が離せず、Bさんを集合場所まで連れていけなかったことがあった。用事を済ませて、急いで集会所へ行くと、AさんがBさんを連れて一緒に整列してくれていた。「何も言っていなかったのに連れてきてくれてありがとう」と言うと、「先生が忙しいときは、ぼくが連れていくから大丈夫だよ」と、Aさんは誇らしそうに答えた。しかし、その一方で、Aさんの「ひとつだけ」という口癖がほとんど出なくなっていたことに、私は気付かなかった。

二学期に入り、Aさんの母から、Aさんが交流学級の学習についていけずに戸惑っているのと相談があった。私は、最近のAさんとの関わりを振り返ってみた。すると、Bさんと学習する時間が増えるにつれて、Aさんと関わる時間は、確実に減っていたことに気付いた。Aさんは、三年生になり、学習も難しくなってきた。困っていたのだ。それでもAさんは、毎日笑顔で、困っている素振りを見せずにいた。Bさんがいるのにわがままを言っていけないと考えていたようだ。私は、Aさんの優しさや気遣いに甘えて、その困り感に気付けなかったことを反省した。

それからは、学習面での不安を少しでも取り除けるように、交流学級での苦手な教科の学習にできるだけ付き添った。ある日の音楽の授業。作曲アプリでリズム譜面を作る学習

だった。Aさんの問いかけに答えながら、二人で試行錯誤を繰り返して、やっと譜面を完成させると、「先生、ぼくの作ったリズム、聞いてみてよ。うまくできてるかなあ」と、満足そうに私に話しかけてくれた。安心して前向きに学習に取り組んでいるAさんの姿が、そこにはあった。さらに、特別支援学級でも、Aさんと二人で学習する機会を増やすようにした。すると、Aさんらしい優しい微笑みが再び見られるようになった。

「困ったら、我慢しないで、何でも相談してくれていいからね」と伝えると、「じゃあ先生、ひとつだけ、言ってい」とAさん。「いいよ、言ってごらん」と返事をする。次に「次」の社会的授業、交流に一緒についてきて」Aさんは少しはかんで言った。Aさんが何の憂いもなく、この素敵な口癖が出るよう、ともに歩んでいこうと思う。



分析から手立てが講じられるようにシステム化を図った。一年生についても同様に、小学校に依頼して入学前にデータをいただくことで、データ連結を可能とした。また、教育委員会から提案を受けた「学級づくり戦略カルテ」のほか、「要支援群」に属した生徒への対応として、具体的支援の手立てと、その後の生徒の変容を時系列でまとめる「個別支援カルテ」を担当が作成し、次年度以降に引き継げるようにしている。

確かに、これらの「カルテ」作成には、担当が時間も労力も費やす。しかしながら、目の前にいる子供たちの隠れた、もしくは隠されている特性や傾向をデータ分析という手法で紐解きながら読み取って手を打つことは、間違いなく子供の幸せの実現に直結していく。そして、教師が費やした労力と時間は、教師自身の代えがたい財産へと姿を変え、子供たちの未来を明るく照らす礎となる。

最後に、WEBQUの分析をする上での注意点について触れる。QU分析の最大の利点は、「類型」・「安定度」・「活性度」の三観点から学級の現状を把握し、客観的視点と俯瞰的立ち位置で、学級運営の在り方を見つめ直すことにある。「要支援群」や「不満足群」に位置した子供が存在で教師力を測るものではないということをご心下さい。



スポーツとアジア各国の文化体験から学ぶ ～学校フレンドシップ事業～

▲アーチェリー体験 アスリートによる学校訪問（美合小）

二〇二六年九月、アジア最大級のスポーツの祭典であるアジア競技大会、同年の十月には、アジアパラ競技大会が、愛知・名古屋で開催される。岡崎市では、岡崎中央総合公園が会場となっている。そのような中、アジア・アジアパラ競技大会がより子供たちの豊かな学びにつながっていくよう、学校フレンドシップ事業が実施されている。その事業内容は、小中学校でのアジア各国の文化紹介やアジア料理の調理体験、アスリートによる学校訪問や、アジア競技種目の体験等があり、小中学校合わせて、二十六校が参加している。学校フレンドシップ事業のねらいは、主に四つある。

- ① アジア各国の言語や文化、歴史、社会情勢等について、主体的・探究的に学びを深め、世界や異文化への興味・関心を高める。
- ② スポーツ体験を通じて、生涯にわたる心身の健康維持と、スポーツを通じた豊かな人間関係構築の喜びを学ぶ機会とする。
- ③ パラスポーツの体験やアスリートとの交流を通して、障がいへの理解を深め、誰もが生きやすい社会を創るための視点と行動力を育む。
- ④ 大会に関わる人々やトップアスリートの姿に触れることで、自己の可能性や多様な生き方、キャリアについて考えを深める。

学校フレンドシップ事業を通して、多様な文化や生き方に触れた子供たちは、スポーツを通じて、生涯にわたる健康維持の大切さや、生き方、他者との協働について考える力を育むだろう。未来を担う子供たちの成長が楽しみである。

学校フレンドシップ事業で体験できるスポーツ&アジア各国の文化・調理体験

【アーチェリー】

(アジア競技大会・アジアパラ競技大会：中央総合公園多目的広場で実施)
岡崎市はアーチェリーが盛んな地域であり、過去にオリンピックのメダリストを輩出している。

【座位バレーボール】

(アジアパラ競技大会：中央総合公園総合体育館で実施)
パラリンピックやアジアパラ競技大会の正式競技であり、下肢などに障がいのある選手が座ってバレーボールをする。

【アジア各国の調理体験】

フルーツサラダ、マカロニスープ、揚げ春巻きタピオカなど、アジア各国（フィリピン、ベトナム、中国、タイ）の簡単な調理体験を行う。

【野球】（アジア競技大会：中央総合公園野球場で実施）

過去に金メダルを獲得するなど、日本はアジアを始め世界の強豪として知られている。

【バレーボール】（アジア競技大会：中央総合公園総合体育館で実施）

日本は、オリンピックでも過去に多くのメダルを獲得し、岡崎市では競技人口も多く盛んな競技である。

【サッカー】（アジア競技大会：県内各地で実施）

日本は、前回のアジア競技大会（2022/杭州）で準優勝している。

【アジア各国の文化紹介】

アジア各国の文化や言葉、生活についてなど、アジア出身講師の講話、ダンス、ゲーム、ワークショップなどの体験活動から異文化に触れる。

スポーツ体験学習・パラスポーツ体験学習



▲座位バレーボール体験（矢作西小）



▲アーチェリー体験（美合小）



▲サッカー体験（岩津小）

スポーツ体験を通して〈児童の声〉

- ・矢を真っすぐ飛ばすのが難しかったけれど、団体戦は盛り上がりました。アジア大会にも行ってみたいです。（美合小）
- ・簡単そうだなと思っていたけど、試合をやってみたら、移動してからのトスなど、高いボールを取ろうと思って立ってしまい、意外と難しかったです。声を出し合ってやっと点を取れる感じだったけど楽しかったです。（矢作西小）
- ・プロの選手はボールへの当たりが強く、いつもとは違った緊張感で練習ができました。とてもよい経験になりました。（岩津小）

アジア各国・地域に関する学習や異文化の理解・交流の学習



▲韓国文化紹介（矢作北小）



▲中国文化紹介（城南小）



▲タイ料理調理体験（六ツ美北中）



▲スリランカ文化・遊び紹介（連尺小）



▲フィリピン料理調理体験（恵田小）



文化紹介・調理体験を通して〈児童・生徒の声〉

- ・スリランカの言語は、まるで音楽の記号みたいで難しかったけれど、少し勉強してみようかなと思いました。遊びでは、ココナツの実に貝殻を当てて裏か表で勝ち負けを決める遊びが楽しかったです。（連尺小）
- ・タイでは、給食当番や掃除当番はなく、業者の人がやってくれることを知り、日本の学校生活や家庭生活との違いを知ることができました。（六ツ美北中）



●教育最新情報

◆「ローマ字のつづり方」

「ローマ字のつづり方」(令和七年十二月二十二日付内閣告示)を受け、「小学校学習指導要領解説」(国語編、外国語活動・外国語)の内容の一部が更新された。今後、小学校におけるローマ字の指導については、改訂された「ローマ字のつづり方」を踏まえて行われる。約七十年ぶりとなる、今回の「ローマ字のつづり方」改訂では、社会で実際に用いられているつづり方に沿ったローマ字表記とされた。すでに定着している表記等について

「ローマ字のつづり方」(令和7年内閣告示4号)



は、直ちに変更を求めないこと、個人の姓名、団体名等をローマ字で書き表す場合、当事者の意思を尊重するよう、配慮することとされている。

◆岡崎教師塾「允文館」

塾生(第十八期生) 募集

【対象】 大学二・三年生(令和八年度)、または、令和九年度「教員採用試験」受験予定者
【開催時期】(年間十二回)
令和八年十月～令和九年七月

【場所】 岡崎市総合学習センター及び市内小中学校(学校現場実習)

【募集人数】 五十名程度

※書類審査あり

【内容】 講義と小論文添削、個人面接実習、現場実習

【受講料】 一万円(資料・講師料等含む)

【募集期間】 令和八年二月～令和八年八月下旬(一次締切)

【応募方法】 「入塾申込用紙」に必要事項を記入し、募集期間内に「允文館」事務局に持参する(電話での訪問連絡必要)

【問合せ】 岡崎市総合学習センター 教育研究所内

岡崎教師塾「允文館」事務局
電話 0564(83)7770

◆第69回 岡崎市小中学校書き初め展

令和八年一月十七日(土)、十八日(日)に、岡崎市美術館において、第69回岡崎市小中学校書き初め展が開催された。市内小中学校、聾学校、愛知教育大学附属学校から選ばれた力作が展示され、二日間で六三一人もの観覧者が訪れた。



各学級二点ずつ選ばれる、小学校一・二年生の硬筆作品と、小学校三年生から中学校三年生の毛筆作品に加えて、「硬筆作品の部」として各学年一点の代表作品も含めた、総数約二千点もの書写作品が展示された。自分が書き上げた作品をおじいちゃんやおばあちゃんにうれしそうに紹介している小学生の姿や、素晴らしい出来栄えの作品に足を留め、「こういう字を書けるようになりたい」と嘆息しながら見つめている中学生の姿などが見られた。

◆第77回岡崎市民駅伝競走大会の結果について

令和八年一月十八日(日)、晴天の下、岡崎市民駅伝が開催された。地域ブロック活動のチームとしては、初めての参加となる。コースとなった沿道には多くの人々が応援に立ち、各チームの代表として懸命に走る中学生たちが通ると、ひと際大きな声援の声が響いた。結果は次の通り。

- 中学校男子の部
 - 1位 岡崎MUTSUMI A
 - 2位 岡崎NORTH A
 - 3位 岡崎SOUTH A
- 中学校女子の部
 - 1位 岡崎EAST A
 - 2位 岡崎NORTH A
 - 3位 岡崎WEST A

【区間賞】

- 男子1区 近藤 龍牙 (岡崎EAST A)
- 男子2区 大谷 颯士 (岡崎NORTH A)
- 男子3区 小林 光 (岡崎MUTSUMI A)
- 男子4区 村松 支葵 (岡崎MUTSUMI A)
- 男子5区 柵木 恂心 (岡崎MUTSUMI A)
- 女子1区 白石 絆那 (岡崎NORTH A)
- 女子2区 安藤 美遥 (岡崎EAST A)
- 女子3区 柴田 和佳 (岡崎電美 A)
- 女子4区 早川 真優 (岡崎EAST A)
- 女子5区 佐野伊桜里 (岡崎EAST A)



●第61回 岡崎市小中学校読書感想文・感想画コンクール表彰式

令和八年一月二十三日(金)、岡崎市総合学習センターにて読書感想文と感想画の優秀作品について表彰式が行われた。読書感想文一・一五二四作品、感想画一六〇八三作品の応募の中から読書感想文二〇作品、感想画一一作品が入賞した。

表彰式に参加したのは、読書感想文で市長賞を受賞した岡本睦玄さん(本宿小一年)、伴悠汰さん(矢作南小四年)、黒柳翠月さん(甲山中二年)、市議会議長賞を受賞した今岡知花さん(井田小一年)、鈴木智大さん(男川小五年)、合津千秋さん(北中三年)、読書感想文・感想画で教育委員会賞を受賞した二十二名を代表して、柴田環奈さん(小豆坂小六年)、奥田心彩さん(城北中三年)である。また、読書感想画にて岡崎南ライオンズクラブ会長賞を受賞した八田彩帆さん(三島小一年)、大滝和奏さん(常磐南小四年)、山下結衣さん(美川中

三年)も参加した。

表彰式では、岡本睦玄さんが読書感想文の朗読を披露するとともに、山下結衣さんが自分の読書感想画を披露して作品に込めた思いや工夫点などを聴衆に伝えた。

●表彰

◆株式会社CBCラジオ主催

第66回小学校作文コンクール

文部科学大臣賞

小豆坂小 増永 奨

◆第75回全国小・中学校作文コンクール中央審査

○中学校の部

文部科学大臣賞

竜海中 都築 紗奈

◆第75回全国小・中学校作文コンクール都道府県審査

○中学校の部

最優秀賞

竜海中 都築 紗奈

◆第93回全国書画展覧会

○書の部

筆都大賞

南中 中根 両子

◆第69回日本学生科学賞

入選一等

福岡中 町田 新

◆第18回東海・北陸地区中学生創造ものづくり教育フェア 第23回創造アイデアロボットコンテスト東海・北陸大会

○制御部門

1位 福岡中

2位 西郡 蓮・三浦 弘輔

大石 新・長谷部裕来

出場 窪田 暁人

葵中

○応用部門

2位 福岡中

大石 新・長谷部裕来

出場 窪田 暁人

葵中

○ポスターの部

特賞・中日新聞社会事業団賞

連尺小 阿知波奈々

銀賞 三島小 伊藤 美香

賞 竜海中 北條 優芽

○書道の部

金賞 竜海中 北條 優芽

三島小 伊藤 美香

竜海中 北條 優芽

◆第56回市村アイデア賞 努力賞

努力賞

翔南中 永井 玲奈

◆第9回JA共済小・中学生書道コンクール

○条幅の部

金賞

竜海中 判治 里紗

◆第75回社会を明るくする運動 作文コンクール

社会を明るくする運動

愛知県推進委員会委員長賞

城北中 石田 佑汰

◆第50回ゆうちょアイデア貯金箱コンクール

○小学校三年生の部

すてきなデザイン・アイデア賞

大門小 亀垣 亜子

◆令和八年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

○小学3年生の部

3位・特別賞

緑丘小 永田 咲月

永田 咲月

永田 咲月

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談 (SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
あいちこころのサポート相談 (SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	



・カ
ツ
ト
六ツ美西部小
今井優樹

季節を味方に (昭和53年)

写真提供：岡崎小学校

雪で真っ白に染まった運動場で、子供たちが走り回っている。雪玉を投げたり、追いかけてっこをしたりする姿から、寒さをものもしない楽しさが伝わってくる。

昭和四十八年から、岡崎小学校では、体力の向上を目指して、毎日二十五分の業間運動を全校児童が行っていた。昭和五十二年に現南部市民センター分館付近から移転した後も、この取組は続いた。校庭や遊具を使った運動を中心に、子供たちは体を動かす習慣を身に付けていくことができた。

いつもどおりの取組を、場の状況に応じて内容を変えてみる。子供たちにとって何が学びとなるのかを考え、季節に合った取組を大切にしていきたい。



他の誰も取り組んだことのないことに挑戦するには覚悟が必要だ。同業会社に先駆け、産業廃棄物選別の自動化に挑戦した西田氏。当たり前を変える人になるという強い決意がその実現を生んだ。

一年の終わりが見えてきた。子供とともに「挑戦しよう」と掲げてきた目標。達成のためにできることはまだある。

登校日数を示す、卒業までの日めくりカレンダーも残りわずかとなった。

子供たちは、別れの寂しさ、新しい生活への期待など、様々な気持ちを抱いて日々を過ごしている。巣立ちのとき、私たち教員に何ができるだろう。子供たちが未来に向かって羽ばたいていけるように、背中を押す最後のメッセージを考えたい。

ど ホ ツ

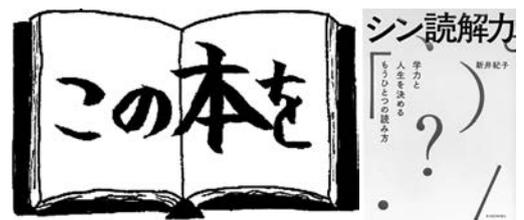
如 月



▲スキー学習 (東海中)

「伝えたい」。学校フレンドシップ事業の各国の講師、アスリートから強く感じた思いである。子供が「知っている」と思っていることでも、体験したり、本物に接したりする経験が、自分事として考える大切な機会だと知っているからだろう。

実感を伴った体験や知識は、この先を生きる子供たちの道しるべとなる。



*シン読解力 新井 紀子
東洋経済新報社 ￥1,800

心に残った一文
学び続けられるスキルの基盤となるのが「シン読解力」なのです。

教科書や辞書、新聞などの「知識や情報を伝達する目的で書かれた、自己完結的な文書」を読み解く力である「シン読解力」が、学力だけでなく、人生を支える基盤となることを著者は説いている。

AI時代を生きる子供たちに本当に必要な「読む力」とは何なのか。教育に携わる私たちが、授業構想や子供たちの言語活動を見直す上で、本書は多くの示唆を私たちに与えてくれる。「読む力を育てること」は、すべての教科の根幹にかかわる課題である。子供たちの学びを支える、「読解力」の本質について、改めて考えてみたい。

- *星の教室 高田 郁 ￥1,600
角川春樹事務所
 - *脳は耳で感動する 養老孟司/久石譲 ￥1,600
実業之日本社
 - *傾聴の極意 中越 裕史 ￥1,700
世界文化社
- 矢作南小学校 川端 啓介